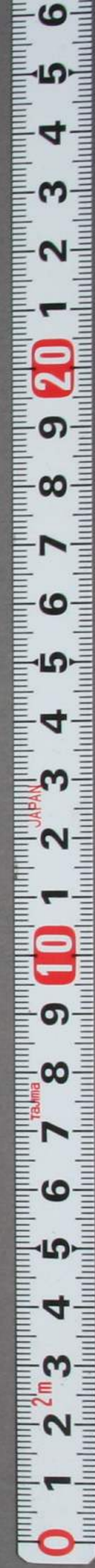




國朝志年録

73  
邊  
698  
6

73  
698  
6



門 7邊  
號 698  
卷 6

國朝舊章平詠卷

漢ノ世ノ武帝大ニ靡ヒト好ミ

玉ノ多ク事成ルニ後ニ對君語候ニ

貪<sup>ハ</sup>カ<sup>ク</sup>シ<sup>テ</sup>高貴ノ富<sup>ハ</sup>有<sup>ル</sup>ニ分<sup>ル</sup>者<sup>ハ</sup>わ<sup>ル</sup>金

法<sup>ハ</sup>兼<sup>テ</sup>穀<sup>ト</sup>借<sup>テ</sup>用<sup>ト</sup>ノ弁<sup>ハ</sup>秋<sup>ノ</sup>成<sup>ノ</sup>時<sup>ニ</sup>

至<sup>リ</sup>テ邑<sup>ノ</sup>入<sup>ル</sup>ト<sup>モ</sup>以<sup>テ</sup>是<sup>ト</sup>借<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>邑<sup>ノ</sup>入<sup>ル</sup>ト<sup>モ</sup>知<sup>ル</sup>

ノ收納<sup>ノ</sup>方<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>事<sup>ト</sup>史<sup>記</sup>漢<sup>書</sup>ノ對<sup>シ</sup>君

皆<sup>テ</sup>首<sup>ト</sup>と<sup>シ</sup>借<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>作<sup>ル</sup>事<sup>ト</sup>書<sup>ク</sup>ル<sup>ル</sup>對<sup>シ</sup>君<sup>ト</sup>

ハ<sup>ハ</sup>北<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>借<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>外<sup>ニ</sup>候<sup>キ</sup>對<sup>シ</sup>君<sup>ト</sup>進<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>人<sup>ト</sup>





此列ノ入本ノ貫カキル物ト云テ後す工  
人他支あり望紙と後すけて其人成  
困窮せしむる處止のわしうして其に  
不交と云ふ人比くくくく此法候  
とくくくり況や産福の士ちまや風俗の  
ゆき悲しむは能くわり是え産福の  
産の母めく海す市といはれん士ちま  
上生産入り通す味ひあはれん此天子  
以下庶人田を産生産の物と云く  
有るくす礼記よ正割量入以爲出と云

リ一句是生村要文よりあはれん云け一句  
止る庶人ト士ちまなりと生産はかくあき  
あはれんは茲より海す目法候此生中と  
しよし入より量ふとは一年の内わたり網  
を布と入と云一年よりわたり収まる布の  
半穀下山海の法はよまて算算て其後  
収ふといふ事と想し申さくとも是入  
といふ出すといふしてつゝあはれんのかよ  
ひをひくくくともわたり申すも限  
た記ものなるは半穀此貨成と云く

費や一用むる事と裁符つらひて見  
めて満ちたぬとてかかゆらふれとれし  
らうれとて方の限は無く能くは  
号するべき事勿論なりとれとぬ程と  
しやとて限ゆかしく只入と号りて出す  
事とすすこしをま一の用を人よとれ  
くくを限はたさうて先急りの取り  
とすゆきして法教とよりお毎々定めて  
出す事入る事穀人之法と無教ゆきし  
入ると出るとと對等してすまふとる

と入る多く出る少るはけり若出るは  
入るより多るはけり是を多るは是の  
くめてとねはたあゆし入るは内  
河とう減省するまことと号りて省さ入る  
よりと出るはとかくすは是儉た道之儉  
しよと法ゆとちりすは之孔明のよ  
首のよと号ひるまふはよは是のよ  
行要とせりはたさゆと限るはと  
舟夜の限ると号推してはのよ  
是より舟よはかきぬ事と号くは号と

して... 王制... 穀... 入... 出... 年... 費... 入... 出...  
 王制は... 穀... 入... 出... 年... 費... 入... 出...  
 穀... 入... 出... 年... 費... 入... 出...  
 入... 出... 年... 費... 入... 出...  
 費... 入... 出... 年... 費... 入... 出...

出... 入... 年... 費... 入... 出...  
 入... 出... 年... 費... 入... 出...  
 費... 入... 出... 年... 費... 入... 出...  
 入... 出... 年... 費... 入... 出...  
 費... 入... 出... 年... 費... 入... 出...

よとこのゆかりた本後とさしぬととと  
る道なりねと俗世と軍旅とは若し  
よかくしきより河波いぬれ世よ事初大坂  
ふとと前の上告も教なり凡軍波り  
旅りといは波とと河波と俗世よと必ず  
ありしは是等外事なるのありきなり家  
病人ありといふありきなりかくはといふ  
のありき河のありきありしは出でて事教  
候と費はなる事者天子法候より庶人よ  
ありきて道ありし事能く又台事なりし

此教ありと神ありと人祖とある人なり  
よ事なり佛事と修むる教と台事なり  
誕生え後婚嫁は教と俗事なりけ  
りよ毎事よさるりきなりよはわり福  
ありきよは必ありきめて事殺人と活の費  
る事なりけり河費ありきして河費なり  
りきとのこと又自玉自家よして行ひなり  
こと親族と他人のふよありき事難  
ありき事ありき事ありき事ありき事あり  
る事ありき事ありき事ありき事ありき

まことにぬちのふちをたはひ給と願ひあり  
すすいぐの計をす給ふの事かうけとなく  
念くさしむる者よ入ふと出る事と同し程  
めしてとる思は給へと申すはさかたはし  
むちの給へとなすしてむちよ過に用  
度むちするゆゑよ人と信ふ事こそより  
初ふ事教へる人と人よ信ふ事ハ利きとく  
りして返すゆゑよ前此子とくじとく借い  
やまうよ多かりて初よ後するもあつて  
とのかりて是よよりて古くも子よ必す

不慮の戒となせり戒とは用をちり市よ又  
ふらとよ後給ふ思古くも言教なりと云り  
して出と入りかゝりてあふの給とあふ  
よはいとせんこととよ王割よとて耕  
一年に人食むこととて是を香人の法は法  
とて二年耕よねい必一年の人食むとの給  
かりとよはわとて二年の收納とほりよ  
かあてとてとてとてとてとてとて一分と  
給してたくとてとてとてとてとてとて  
法士の万石の福わとてとてとてとてとて



とあるは私の法用と弁して武めおむを  
餘りし多くとある時と二年からこの比餘  
ら又揚るし七めおむとあるは武するら  
一年の八良こむ毎年中は三と餘すは  
九年の五めりれは二年と長しふとの終  
しありし二十年そのゆりれは十年は終し  
ありし終るしハいらぬ十年飢饉ありて  
災患ありて武め用不足するしゆがこ  
へこれ人のふめして毎年一と餘すと  
しあるは多き事といひて是人を十しつ

り分こむは法候を武めく大分をして  
文と終るは再築は五年の是入と  
しお初の大分は厚浦候より二年は是  
入と出く武め武家は出入無他の事  
ありて人丈と出く武め軍旅に役はあり  
わつてこと又二年は是入と出すは是  
の事は少くこのむあつてことすは年  
の是入其よりこの教より武めと細うは是  
武は毎年一と終るしと終るは是  
と王割るは法と三すは二年は是

一年の人食と出するのちのたれはあつたはちよひの  
さこのねのちの事ありては高きよは居てまじ  
用よと弁すねらふと高きと神ありまじ  
しはは依て年くは電田高き通して後  
ゆらぬ人ととあらわしてはたとちくはうする  
物とと出する法とちひ義とちき人通は  
なく事多し居てまじねらふと年たれあり  
必一年は人食と居するといふは古き人の教  
しめてゆく積りきる法はわらふと凡ん  
のまじのちとちと高き年の入と高き年

し用ふねらふと高き年たれありては年よお  
くろくつとちたきなりわらは法候て下は明  
き年の高き年の入とと高き年よはち候て  
わらひては國に新する年よきよなりては  
学す所のの法する事候てとわらひありて  
異國よは義今君とと事者随の文章の  
しはは長強年とと名及文高き君の官  
なり及文高きととわらひありては費用  
法教とと納きふはなりては年申す  
長強市ととよしてよとと高き年

建氏のあひくより主員高し随て毎年  
粟麦一石心下と出さしむと取立てて主員  
の金君は納りては里入り父を主と名君は行  
し金て凶年飢饉の時はと出しては部  
とすくくしむと義人君と云氏留めて  
ひよおゆては部と取さうわよは義と名  
付さうい本目とめて文武を向せは世よ  
わりと本留めては世少と行らるる本  
とて洲くくく氏向とよよ及さす法候  
の由土を文の仲よとて行て補ふ和をさ

るたかき法と概さるよ見万石心下の  
法候よりは法長くは権侍の同より二十  
分一と出しては金君は入し二十分一は  
百俵の内は人俵と出さし百石心下は勿論  
より百石心下は取はむ法の右連もと  
くく二十分一と出さしむとくくく  
二十分一と出さしむとくくく  
はより廿二十分一と出さしむと  
義人君は入敷めてたくとあはき程と  
とと行し金て候と價のむととて

繼て人々よれしてたふらあたるに諸士はうち  
兼教よ述く後田なるを成あくるんて義  
合右とこすくしりわ下よ士卒と分て合右と  
ちしりわ出。鉤の没よ海すべくぬ山年飢  
嵐有て極人食わ是といはと出してきわ長  
と補せく若き玉色めてと又とよあ物  
のゆもてと人災わりくこも福よ過人よら  
こも又とかうねか草よ是と出して武  
ふ入武と使え色く是もと留諸人一口の  
厄難より又一生よあめて後病なり妻わ

あつてわ付う書道にうらみゆら又あ付ら  
福とと婦とわらう娘と嫁するよ費用  
多は事有らば此の故よ極て殺よ  
てとかこめてと出しく使えくこも多あり  
あふぐひてあ年よ述く式と二年二年  
よ述く式と二年よ述よとと利は  
と出しくびしく利はととめさ右よを月う  
一升福と定てするくか浪の利はとと  
とよよ水くゆらんけ義合右よ述す右は利  
はとよ毎年入る福はは同めて川百をく

凡主人たる家よあるはちの者て用度不  
 足すれば年々滞りする許多の利息  
 と出しく或は入ると急よらら進て困る所  
 一其の上は高き道すれが武具馬具よ  
 つらぬて四半代のきと金と所<sup>セキ</sup>積<sup>ツキ</sup>く年日の  
 衣被まてと累あててよも此勢と成  
 ころはよおふと多し一かうは主人の庸社  
 とつらきと由義と多しよるはさう起るなり  
 義人若れかを教と修て是よ利息と出させ  
 ちむるいこと只一人とかりきう典<sup>典</sup>蹟と

子<sup>子</sup>藏<sup>藏</sup>は皆<sup>皆</sup>利<sup>利</sup>と取<sup>取</sup>て借<sup>借</sup>ととのし印<sup>印</sup>よ  
 じうの<sup>の</sup>厚<sup>厚</sup>利<sup>利</sup>と出<sup>出</sup>らんより一義<sup>義</sup>人<sup>人</sup>若<sup>若</sup>し入<sup>入</sup>る  
 ころと一人と取<sup>取</sup>て大<sup>大</sup>弁<sup>弁</sup>をよる方<sup>方</sup>とちう<sup>ちう</sup>付  
 ころよ者<sup>者</sup>ころの<sup>の</sup>患<sup>患</sup>とちあ<sup>あ</sup>れは義<sup>義</sup>人<sup>人</sup>若<sup>若</sup>し  
 貸<sup>貸</sup>る<sup>る</sup>と主人<sup>主人</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>よ<sup>よ</sup>是<sup>是</sup>の<sup>の</sup>便<sup>便</sup>利<sup>利</sup>なり取<sup>取</sup>り  
 せ<sup>せ</sup>井<sup>井</sup>の<sup>の</sup>法<sup>法</sup>とちう<sup>ちう</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>印<sup>印</sup>よ<sup>よ</sup>て<sup>て</sup>貸<sup>貸</sup>り<sup>り</sup>又<sup>又</sup>は武  
 官<sup>官</sup>衣<sup>衣</sup>被<sup>被</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>典<sup>典</sup>あ<sup>あ</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>事<sup>事</sup>と<sup>と</sup>表<sup>表</sup>禁<sup>禁</sup>く<sup>く</sup>凡  
 何<sup>何</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>債<sup>債</sup>と<sup>と</sup>負<sup>負</sup>く<sup>く</sup>は<sup>は</sup>一<sup>一</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>人<sup>人</sup>主<sup>主</sup>限<sup>限</sup>と  
 出<sup>出</sup>く<sup>く</sup>主人<sup>主人</sup>名<sup>名</sup>と<sup>と</sup>印<sup>印</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>と<sup>と</sup>急<sup>急</sup>て<sup>て</sup>使<sup>使</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>家  
 とく<sup>とく</sup>大<sup>大</sup>者<sup>者</sup>後<sup>後</sup>と<sup>と</sup>好<sup>好</sup>ま<sup>ま</sup>き<sup>き</sup>は<sup>は</sup>一<sup>一</sup>と<sup>と</sup>急<sup>急</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>

吾也のちかくしてはましくはるるのちかくは義  
令君此人を教ふと述べて其を饒むるは  
若くはなかりと又家なれん又と軍旅  
河波のちかくしてはましくはるるのちかくは  
る事なりと云ふ君と臣と義令君此人を教  
と備つてそととすくひに事なりは同しと  
教ふの同し必とと後かたし若くは法士  
の同し死亡して子孫なく後と女も親  
族となくしてはましくはるるのちかくは  
本と孤女なりと云ふは士人の父祖の事義令君

よ入る教と中算してそとと義令君孤女よ  
揚かしくはましくはるるのちかくは義令君  
漸大器なり凡人と事生さるるは日よ後  
つと戒り用と善して少死と後かたし  
後して能くたくと云ふはあはれは  
義令君の事なりと云ふは凡人の事なりと  
弟はるの事なりと云ひて能くはるるの事なり  
出してはましくはるるのちかくは  
百人よまき人よまきと云ふは凡人の事なり  
此の事なりと云ふは凡人の事なり

の能けきくことと一財十用ひそく宣  
意といふべきはれより。是は人員官務止ると  
のせよ多し義人若くは入信よてさく  
よしよりす納つこと法有出すし割り  
自由らする毎季派作る内ゆて少許  
の兼と引取あるはさるるゆわらば(一)私家  
より新し出すはよりわらすはたみら  
しむ事とねく元と氏とよ百人を  
不回めく必の利害と文ふと一極あり  
福もとるはせしむるは後て採用し

きつと信と若くは(一)元入回然とされ  
あしよのとと院印とゆら女くの利害  
よつとすするはよ員難とすくべきは  
術と若くは只推しては事年の日よ信法  
より是と否改とすか(一)宣第の義人若く  
しとめしむ(一)づ(一)世よいづ(一)はま  
と(一)は(一)術ものか(一)と(一)列(一)春(一)  
秋(一)氏(一)改(一)も(一)義(一)人(一)若(一)く(一)は  
と(一)ア(一)り(一)地(一)の(一)候(一)也(一)よ(一)と(一)是(一)と(一)は(一)あ(一)り  
ま(一)ち(一)と(一)あ(一)り(一)れ(一)と(一)也(一)り(一)は(一)改(一)は(一)若(一)く(一)は(一)

邑と名くうみでよも下も浪入良月及不  
きなる中より波入く人の法候は皆食  
官初めく下下りる海はと作るして是故  
のよもく為さす高と廣らんとするは教威  
の入とあしてとあひかゝる道は是れ人若  
とよふる事かゝるはく程と強海の志  
しわらん人の痛節すしき事たり以上  
人良化質と海す  
日下り入る人幣古くといふは割らりしより  
事とよくす中古の事ハ妙合と用ひる

ふとすの浪と用ふる事ハいつの世うも  
はるるといふの洋はすし明海と和洞  
海と清て其後かゝりて清るくは稀なり  
中古より唐に言え海多く其まよ海は  
いふ海字は海は多く波つらゆいばるこ  
海と海はれともいふは事なりりと見  
ゆえは海も多く海はり明海は清水水  
海より海は道代は道は海は多くいふ  
はらゆは日下りめくは海は田比めくは水  
海はめくはとと定めて海はと海は



扱めて表百貫表の貫と定むるなり  
は四書水法と用ふ事本を院よりい  
よ共のめくハ涉と濤よりハ高代よ  
寛永年中に初て新法と濤をせしむ  
文よ寛永水通宝と云昔より有るは  
玉の法とテ更てハ水銀法と云  
文と云々蓋人のまの取成といふ  
新法多かるはハ水銀と價紙なり  
てはハ寛永水と同なり寛永年中

ハ新法と濤を西ハ文と寛永水通宝  
よりハ文ハ字わり世ハ是と文法  
宝永ハ又新法と濤を寛永水通寶  
と用ひてハ文の字よりハ正法  
ハ字保ハ又濤をハ高代ハ水ハ  
高代ハ寛永水通宝ハ文字  
文の字保ハ教及濤を新法  
通年ハ高代ハ水通宝ハ字  
寛永水の同法ハ同ハ農氏  
板人とのめきハ形と云々

のうら文となく款・織といふは西よ廻き  
割わり款・織ふ・活めて別名こま氏お物  
よ持けて合言幣局の名より入せて言るよ  
織田氏の付う板金をりよるよ文と款・織  
と夕活といふよと言しと粘金をたりよるよ款  
織ふくちて天下よ通けし・活地よするよ  
とやうく若くよるよの板金をめて切てよるよ  
と禱てきひしこと言ふよ純とけ付京よよ  
て廿板入ると言きり九入と浪と純禱よるよ  
ときよ純禱よるよ活といふかよるよ文

寫ハ活のまよるよはよるよ代よの入ると純  
禱よしてるよ文とけひしよるよ高代ハ粘  
入と活とけひして又るよ文款・織者活造織  
あせうしぬり入るとるよ活ハよるよ  
と一活式よとるよかよるよ板よと十六活  
の字よは七あぶらこし板入のハ活ハよるよ  
よあに板入るとけ付糖よ昔入のハ活よるよ  
して入と幣よけよ高者あよるよ下よるよ高  
同並入るとあよ浪よ活活活活活活活活活  
よ通よ活と若よすよ活よ活よ活よ活よ活よ

ことと又概しと欲しきごとく其の所は其の故を以て  
お板人よりかへお板人にとりて其の所よりかへるよ  
作派と出す倍は是れ切替と云ふ人ときりて  
小人ときりすと云ふよりえ浦をきとてりて  
其利とす又小くかへるはみゆと云ふは  
いりて又お板人かへるはと云ふ人のまゝと云ふ  
増減は少し大の方よりえ人と出して小と  
いふはとつて心算を考ひよく其とのゆゑに  
考ひよく其の又お板人にとせよ其のゆゑに  
て土人皆元派と出しく其の所と云ふは是れえ

浦より利めて土人更りしと云ふは中よ大  
板人より氏同よつてよ用ひさる物はお板人  
か其のよよ守りし土人其の所よ用ひさる  
よ是れより派と出しく其の所より便利を  
か其の所より思ふ十年常と云ふは其の所よ派  
ハ文式と云ふ文よりしよ其の所よ其の所よ  
とつてめより其の所より文よ其の所よ其の所よ  
か其の所より其の所よ其の所よ其の所よ  
とつて其の所より其の所よ其の所よ其の所よ  
わんんや

尚代を長年中は印波れ山より人々を出す  
 是と取て人の幣と違ふ人々より或る世より  
 其のえ縁年中虫用へるは用て浪洞松湯  
 と新と新の幣と違ふ文より元は或る  
 之は其の又式事と違ひ一人か人々とまうりて  
 取小す一四其の幣事其の赤色とまひて  
 論石より是と縁新の幣と稱して海内  
 より此の度長古人と止むは新の幣より此  
 人より幣よりして幣よりして幣よりして  
 罪人多く出せば刑罰と被るは氏同也と

け幣の此人よりわくさ家族女にて稍く百貨  
 の價と増へるの由は古人より減りて其の  
 是と貨物のわらひもよく其の物に  
 へるの由は減りて且海道の人多く其  
 同より流布して其の由は其の幣は清り  
 文に冊事と深く憂ひ此の金幣の  
 神より此幣ととに波らん事と思惟せ  
 させたりたりと云れども元縁人の由と浪洞  
 松湯と新して人々と其の由は是は  
 流るる事長入る古人の幣より此人より

んすすれと天下人の幣の教をまこと減  
さるべき事と云ふるまじき事と後す此の因  
姑くよ人の幣と造るるを造るるに依りて  
板金と銀一歩人のと造るて其中の銀物と  
とて他人と云つて新幣と造るるに依りて  
小きくしてこそなりけり幣入るるもこ  
し板金をと  
と云ふ二錢の幣を造るるに依りて  
又板金とはいふるに依りて二年の幣と  
止るるに依りて  
け新幣と云ふるに依りて海内

よりの小板金と云ふ文は乾字の字ありて  
是と乾金と稱すは幣出てより氏名は  
造るるの者なりと云ふるに依りて  
氏名と依りて造るるに依りて  
是は板幣よす減めははく人持何なり  
其幣と云ふるに依りては是は減する  
めてははくははくははくははくははく  
け幣と云ふるに依りてははくははく  
及幣に渡す返るに依りてははくははく  
と云ふは姑く是と云ふるに依りてははく

かつすしてまゝ長の故幣は渡せし乾合  
はるか昔のまゝおまゝなるべしとかあり  
漸くは乾合の重と減く法化貨の價と増  
て故幣は渡せし時より換矢に増し  
より下氏の授けたる高貴なり利より買ま  
ふと士大夫の及不おめすはよむて乾合  
又大小板復なり正徳三年 文二廟無  
治ひく時入店と右て入る幣とき長板  
よ渡するまゝと觀合なりまゝなり氏  
官は洋乾合の重と減してわらう價

きかくまゝとく洞法二費六百文よ  
よむなり 二章廟より時より長板右幣  
に準して又新幣と造らるわらふ板合  
とは物く一重して大小板合ときと造  
ふ粘ふ人ときく造らる乾合の乾れま  
と止めく入り重き重くまゝ長板板幣の  
く正徳はまゝり積世よ出く行く  
是と新合の重と減く一重と乾合の重と減く  
まゝと乾合の重と減くまゝと乾合の重と減く  
まゝ長のまゝよまゝと乾合の重と減く

の取替と並て行あるまじしと入せしむる  
けし人々幣多品般名難して民利なき  
不便利なり人々如虫家におうして高深の  
初より改して乾金と止め其元禄入り式未合  
と廢して其より新金と改し其よりわくふえ禄  
年中より新幣と造てより其より長れ古幣と  
止し其より世より長人といふとの絶く  
少く其より心造り此より人の新幣と造り  
其より長の取し後より新古入り再び改り其  
らより其より其より長人といふより其より其より

と新金をおよせり元禄より其より其より  
同いし其より其より其より其より其より  
より高深の乾金と兼く今れ新幣よわく  
あり其より其より乾金といふと氏より  
より其より其より乾金といふと氏より  
より其より其より其より其より其より  
幣よわく減すといふ事其より其より其より  
消磨して其より其より其より其より其より  
費して其より其より其より其より其より  
其より其より其より其より其より其より

よ入しじ新入と蓄蓄とゆききり教年共同  
よきも長入の洋多く成り新入の十分をとり  
え強の年慶進きる及幣の今新共ぶとく  
多く出きりといへうの乾入又多く強進きる  
しききりゆめしうり凡令浪とて下通  
用の貨幣よりし蓄蓄として強き金入き  
およわすす入強入の令のふら強きかめく  
幣止してせよはりきれしききりとのわり  
乾入とて秋のきききめして好入とてはとて  
と強きしてはりきれと氏子に蓄蓄とてはとては

用ひか車とゆす政道の世とては(新)  
幣よかあるゆよはり政道のせよ世よ慶  
おとめて強進きるおとてはとてはとては  
いひて強進きるおとてはとてはとては  
道より強く乾入とては新幣入るおと  
よゆひて強入りとて新古並へおとては  
はとては強進きる乾入又おとては貨幣  
世よき強進きるおとてはとてはとては  
利あるゆしとては新幣入るおとては  
とてはとては強入りとてはとてはとては



主てえ福い事れ改造也今之幣意く止て  
かくき長う放し波より浪し月か及る  
改なりき保ちる新令なりし時と海内  
へ之幣意もと減ととあひてと氏いふ是と  
欲きしと改とと磨て新幣めく減  
の物とさぢみ思ふす氏と痛と云ふ  
由家の改と減し軍費といふ改め  
あ代り浪幣と玉初め事二ある一つは  
浪定く二つよと碎易の浪といふ  
以てをよとす碎易又山等く改す

二つよりいふ沙よ玉初め改  
かしよ浪よ是と長板より浪浪と  
一挺とす事す早に沙の浪よ板浪と  
よと改とて必く事すすわりよ  
浪浪と碎と浪よ又無きよわ  
浪浪といひ碎浪と易は必浪浪の  
よりえ沙といふ板浪とよ入と  
一浪よ改との改と玉初め浪幣純  
物改とよえ浪改造のと浪よ洞  
と新てと改多くす文よえ改と

是と云ふ縁と云ふは長う及浪は比と云ふは  
（指）指の指しは幣は海内よりせしむる浪  
と云ふ止せしむる幣は浪よりせしむるはよつ  
て海造する名記つて士氏歌と云ふ名多  
しは新浪めて已久くかりし宝永年中に  
又如申置るよなりて幣の枚と多くせん  
為し洞江端と増加し文は宝永の字は  
中とて是と宝永の浪と云ふ源の浪  
と止る宝永の新幣と云ふ是は是は是は  
是て云ふ源は比と云ふは比と云ふは比

姓す是めてと止しと云ふは又新由と増加し  
て文は二つは宝永の字と中とす又江端し  
或是と姓するは是は是は是は是は是は是は  
是は是は是は是は是は是は是は是は是は  
中と云ふ中とすは又新由と新由して  
文は宝永の字と云ふ中と云ふ宝永年中は  
とは及海造する浪幣と云ふは二つ宝永の  
宝永の宝永の宝永と云ふは是は是は是は  
是は是は是は是は是は是は是は是は是は  
是は是は是は是は是は是は是は是は是は

氏と残ししものなるをいふ  
が初めより及浪と六十浪とて八をいふ  
とて一浪と濁浪七八十文は並しるなり  
是とつひとせしよに室は並れ浪はぬて  
と並大まき減して八十は浪とつひて八を  
るよと一浪と罕文は並すまよいつて  
去氏患をいふ事と人との浪とて浪と  
用はるの稀なるはよと浪るの害とか  
くありしものと相しる事あり西にありし浪  
とつひに一浪と並浪るの害とすまよいつて

是の事より浪遠といふ人多して去氏の患  
をいふものなり  
文朝大統とせ  
てより大まきよい事と患をいへる  
は事の大なるは浪と消し初めより  
及幣よ浪せん事と浪るは事と遠よい事  
よい事して純浪といひ及幣の事と新  
浪と遠らなりは事と並浪二年より新浪  
浪る世より浪る事と並れ及幣は事と  
た一浪といひは事の浪は事と並すに室  
二室一室を福までには事ハ事と久し甲しよ

をさうして高き増進しよとて改造の形  
幣より重す新幣いふ海内より入るは  
よりり然せし心はよみ等其趣合と  
いふるに廢せす新幣と並ひしは只一神  
の諸幣よぬ趣合等ありてさむと多  
る同めあしよと氏を苦しむるは  
字深の始よおして新法とりてえ流  
し入る趣浪と重く廢してさむは新幣  
と流ししはさむとて海内の新幣  
減して甲らるとめしよと氏とさむ

ありしはれを教年入る歴新浪海内は流  
布せしは漸くは痛と云ていつと  
玉初の玉の皮よ後せしは又目が及  
より洞濤と重く水よ来世よ多く流布  
せりえ流るる年より玉用一連しよ  
形よて新法と濤る本と 人官せし  
何の有り司其秋洞の多く費るものと  
法流と難て法の形と流くはさくと  
重く水重く文は流しよと重くは  
重く水の形流しよと重くは通寶とわれ



元通寶の銭と漢の銭は云々下へ能書  
入 漢通寶の銭と漢の銭は云々下へ能書  
と云々下へ能書  
皇帝書云々下へ能書  
是等云々下へ能書  
之等云々下へ能書  
書ハ云々下へ能書  
河云々下へ能書  
云々下へ能書  
火云々下へ能書

沈の目下古銭と和國界跡云々下へ能書  
文と書云々下へ能書  
す高代憲水憲文云々下へ能書  
よ及下代憲水憲文云々下へ能書  
書云々下へ能書  
云々下へ能書  
入 漢通寶の銭と漢の銭は云々下へ能書  
雲水の銭と古來史云々下へ能書

是と好せよ此の如く此の如く此の如く此の如く  
 入と云ふす此の如く此の如く此の如く此の如く  
 形より宝・水・中・玉・用・まゝ・通・運・き・よ・後  
 て形よ又後と通をせありふる此の如く此の如く  
 斗・め・く・西・北・向・文・よ・宝・永・通・宝・と・玉・幣・の  
 目・部・よ・水・久・世・用・の・に・ま・と・玉・を・り・一・文・と  
 以・つ・の・入・後・十・文・よ・通・用・す・け・後・出・て・氏・人  
 き・よ・わ・後・利・の・あ・ひ・と・り・く・ま・る・是・一・部・の・意  
 玉・家・者・人・と・出・て・は・ま・る・と・は・り・て・は・り・て・は・り  
 氏・益・是・と・用・ひ・す・玉・家・者・人・と・下・り・て・は・り

是と用ひきこしととは主利と市とをきこし  
 と若くして決り司目とよけ事と下に今と  
 是とと氏いふく是とけりてすはまはりて  
 此の如く推力と以てと云いて是とけりて  
 此の如くわたりす此の如く氏の情と報じふ  
 本ハ後刑とて後流せしめ難きと云ふ  
 丁七北春 文廟と初級よ是と廢せ  
 らして氏人きよ後入し知を氏るありて  
 物とよけと後とわけて多く此の如く此の如く  
 一付よ是と貨とて是と正徳北末

章之廟の附はおうして又新法と講せしめ  
らるゝ家永の身は法と法とて又よと寛  
永通宝とせりまうねを寛永寛文の法は  
よ較通と洞題おもう又字といふく細  
くぬて教十年と評てと没減とるると  
おもうと母氏同の法又かくぬと價を  
きよらひと字係中よ又新法と講せし  
まらるゝ正徳中の法と同おといは法は  
まらるゝ氏富よ又法多くおとら法少なけ  
しと價をく成多らるゝ價はくくなる

他の貨物もさういふ法の由と寛永の  
へるはよは寛文といふく定とすよら  
らるゝ下は細かよはけと用おらるゝ  
氏富ぬてと力をまわよは寛永八の文といふら  
かき付と及らるゝの多き付とよ寛文  
のよ士人と法らぬと利とて氏よ  
法らるゝ泥と利とす法はるゝ泥と人ら  
法らるゝきより法の法らるゝと  
入らるゝ只上へは法は賣て入ると取入らるゝ  
法と買法といふと買と買と買と買と



ゆゑよ人の好しく法中と名して用ゑしす  
高貴の法中と名して利と名するもの  
りしかるすこれと名するは法中と名して  
して價と名するすは法中と名して  
あ代高の水の中法と名するは法中と名して  
よ海内の法中と名するは法中と名して  
法中と名するは法中と名するは法中と名して  
二十一年の卯に出は法中と名するは法中と名して  
と名するは法中と名するは法中と名して  
の付法中と名するは法中と名するは法中と名して

付よ六道法と名して法中と名するは法中と名して  
入るる事ありて法中と名するは法中と名して  
の氏名の法中と名するは法中と名するは法中と名して  
法中と名するは法中と名するは法中と名するは法中と名して  
法中と名するは法中と名するは法中と名するは法中と名して  
同法中と名するは法中と名するは法中と名するは法中と名して  
投入するは法中と名するは法中と名するは法中と名して  
出するは法中と名するは法中と名するは法中と名して  
の法中と名するは法中と名するは法中と名するは法中と名して  
と名するは法中と名するは法中と名するは法中と名して

價をくちて世よ好調をくさむしよ富を水  
富を文の涉と上女の調をねとて是は  
わりのく神像と清なるわりのつは  
清の清をよむしめく法人の急をよ  
和よと人志をくぬか舟をよ清をよ  
ふ事ありし中より若き舟近き富を水富  
文より清なりしなりしよよ源平共思  
清出てよ清と富を水富を文の及清なり  
よ少くなりしよ近き清と百文の同とつる  
よよ源平共思の思清のみ多く有て富を

水富を文の及清と僅よ十よらうの増加  
樂心よの古清と文よよ富をくはしよ清の  
清と清と清なり 玉富をく割清と  
よ清の多く清をせし清なりよ有る清  
有るは富をくはしよ清と清と神と  
祭るよ清と清と水神と清と水と  
清と清と清なりしよ後世よ清の形と  
清よ清して清と清なりしよ清の清と  
の清をよ富と清なりしよ清なり  
清よ富と清と清と清と清と清と清と

洞へ是れより後が事おぼろしく是り  
りて洞へ價高ききく海月へ山へ  
洞と産する事と多るれと有り目持者  
人工と味て深く割るはあり洞の出る  
事かく世用は益き極まりとあり福と  
價高ききくは少く新法と法なるも  
き事多しとれと事法法は成りぬ  
あり司必洞へき事と苦てこと成と拒む  
者わり昔川紙なる候は細紙の何京  
物の大佛へ洞像と變て寔之文の法

法らしきこと大佛の事なり事部  
の大佛へ事何事像と似て洞像よりなり  
南部大佛像と事何事なりとあり  
法然として洞なり次は鎌倉の大佛像も  
洞なりと法海月へ上る洞像も法然と  
よきこと長きこと成とのこと教とあり  
近年も物よ大比と法なるも  
大佛へなり若く者像と事あり  
物よへなり新法像と法て洞とい  
事なり事成りて事かありなりとあり

名ハ玉入ノ雲ニたくハ身入良ハ虫ニカク世ニ  
河紙度此ノ尺英雄わくハ由効と前々  
て不々ノ大像と兼く毀ち涉と涉出く  
主餘洞とは玉家の法用ハ借く其下ニ  
者極と之て小像と之ちあつたり涉るる  
と之せくりす又寺院と之名有巨刹  
わくすく大淨と涉る事と許す山寺  
院ハは喫淨と之るものと延くてある  
天淨とは悉く毀ち涉淨下此法用ハ  
借くり廿せば洞の之くりす其て其家ハ

氏也其利と之くハ佛法の之と其洞  
ゆて仏像と淨て其功施するものとわ  
らす其法ききみ出くハ其親正と其功施  
ハ同然なりと之く其法と其用軍用ハ  
功其女洞と佛像ハ其毒あるの法ハ不  
知なりしゆなり人々ハ其也わく其是等の法ハ  
人々とも其ハ洞と海内ハ其を院女をく  
又其その山くり洞と出く其也其自り  
其人工の之と法教ハ其費く其と斗く  
て洞と出く其也其費と借く其わく

きこしハ深く創ち申す事又ハ不念に官邸が  
浅敷氏よりおハ流し費よりわす洞院  
の敷とがと申しハ世の用と成且知氏  
いしゆハ使らるるハも官人官物にて困窮  
と免く法をり申す又氏の利とあらねハ上の  
費とくかかす申すおとと増出しく  
功カとらると淋とけりしきなりされと  
人へ減入カをぬハぬすけしてハかやの  
本申す又成るハ昔ハ奥列の山より合  
と申せくハ今と申す事ハ長らるるは後

山より人へ減出しく海内を院ぬハも是も  
漸くハかくいりてカハ人きハ減せりと  
云凡出より生する物と違おカめて氏用  
と物かとのやねいハ山ハ人きハ減せり  
又波山ハ多く生する是陸陽流に其理  
よて自然ハ人より生れハ海内ハカ又  
カハ浪生する山と云ハるハわらべハカ  
山と申すて方費と怪らすして増出せら  
ハ浪生するを院ぬハも是陸陽流の事  
きハハ海内と違ふ事ハわらべハカ

四一是十洲を懸く一つとてはなすは利列令  
峯山小ゆら石鳥とくかたと出すとくはねと  
山神をこと惜みて人よふしす若くは  
劇心ともねは山家つとをすともきいとも出  
の人へ俗説又とて山とこと俗浮屠率  
説たり世の悪人をもは法してとて俗  
傳論とておふ人友人吏人も多くはあま  
いあま河紙度のおとくは英雄よわされ  
と俗説とてやてとてとあんとあひてお  
とてとてのふたりは威と令鬼神よたつ

つとぬこまわりの福とて人とて  
と危く一教よ公より神のふりて文禱  
をて退くはことつとて人いふくは  
懐つてとてはわしてとて出す者もた  
か之峯山が馬山の教はわたり節よも  
とては利者とのはむらうとて  
強く金車懐くは事よわくとて  
術ありとてはとてとて地は  
物とて人いふとては  
神心人よ福とあまはとては



と悔心奉りてんや惟くは礼と以て此乃よ  
こゝ實に成る集んて是なるもの宝と成るは  
ぢみりすかゝりて神罪と云ふより

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



